



陳情第 6 号

陳 情 書

平成 27 年 11 月 10 日

霧島市議会議長
常盤 信一 様

農事組合法人霧島高原純粋黒豚
代表理事 平 邦
〒8994201 霧島市霧島田口字中原2846

食品乾燥施設建設に関する陳情書

【陳情事項】

霧島市による地域資源(熱資源)を活用した「食品乾燥施設」の建設を求める

【陳情の理由・経緯等】

私ども農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場は、「かごしまブランド」のブランドエースとも言える「かごしま黒豚」を生産し、「南の食料供給基地」鹿児島を広くPRすることに貢献しているところです。

その「かごしま黒豚」の必須飼料として「さつま芋」の給与は欠かせないものですが、現在、その殆んど外国産を輸入しており、食の「安心・安全」においても、今年の6月から政府が登録を受け付けている「地理的表示保護制度」に向けても、県内産が求められている現状です。

現在は一部、県内のさつま芋を原料とする加工業者の残渣を集め、都城市にある南国興産(株)(鶏糞焼却熱発電)に乾燥を委託し使用しています。(乾燥や粉末化することは「さつま芋」に限らず「果物・野菜・花卉」等全般に応用でき、未利用な資源が商品として活用され、ひいてはその工程が地域循環方式霧島型農業「アグリスタジアム」として新たな観光資源にもなります。)

3年前には霧島市の「霧島農事振興社」に乾燥を委託していましたが、燃料の軽油の高騰が理由でコストアップになり、中断した経緯があります。

そこで、乾燥の熱源について霧島市に存在する地熱・木質バイオ発電の熱・敷根清掃センターの焼却熱等を有効活用し、農産物を乾燥することができれば多品種の仕事が発生することになり、霧島市におけるその波及効果は大です。

霧島市は「地の利」に恵まれ、「陸・海・空」のアクセスも良く、商品の販路開拓や拡大には優位にあります。昨今のTPP問題においては地域一丸となって「オール霧島」で知恵を絞り、活路を見出さなければなりません。

以上のようなことから、「食品乾燥施設」設置が叶えば、農業環境や雇用とともに経済環境が飛躍的に発展するものと思いますので、趣旨にご賛同くださいますようお願いいたします。